

上田 勉

気仙沼は短い夏が終わり、少しずつ秋めいて来つつあります。道端には秋の草花が、赤や黄色の色で鮮やかです（花の名前が分からないので）。セミの鳴き声が止んだら、夜はコオロギの合唱です。

今回のテーマは、震災遺構についてです。

「第18共徳丸の保存断念」(菅原市長) 7割が「保存必用なし」(市民アンケート)

「気仙沼市の菅原市長は、8月5日の記者会見で、「保存の道は閉ざされた」と語り、船主に翻意を促すことはせず、解体への協力を進める方針を示した。

アンケートは7月1日から同15日まで、16歳以上の市民約6万5千人を対象に行い、15,408通を回収した。

このうち、共徳丸については14,083人が回答、震災遺構として保存することについて「保存が望ましい」が2,276人(16.2%)、「船体の一部や代替物で保存」が2,182人(15.5%)、「保存の必要はない」が9,622人(68.3%)となった。

市は、多数の市民が「必要はない」と回答した要因を、①震災の記憶をよみがえらせる大きな遺構が街の中心にあることへの違和感、②船主(茨城県いわき市)が既に解体を表明、③市の遺構保存に関する説明が不十分と分析している。」「河北新報」8月6日付け)

「アンケートで「保存の必要はない」と回答した会社員の女性(42)は、鹿折の隣地区に住む。「家を壊した船を見て憎いと思う人の方が多いなら、なくていい。維持費も高いと聞いている」と話しました。一方、同じ地区に住む大工の男性(59)は「保存が望ましい」と答えた。「鹿折に人が集まる場所がなくなる。公営住宅ができて、住民だけで、にぎわいが作れるのか」との思いからだ。」「朝日新聞」8月6日付け朝刊)

第18共徳丸は、9月9日から解体作業が始まってしまいました。

第18共徳丸の保存のために、私は何もすることができず、残念無念です。

### 宮城・南三陸町の被災ビル 高野会館 当面解体せず 所有会社「遺構に」 恒久保存は不透明

「東日本大震災で大きな被害を受けた宮城県南三陸町の志津川中心部に残る「高野会館」について、所有する水産、観光業の阿部長商店(気仙沼市)は7日、当面の間は解体しない考えを示した。被災建物も次々と撤去される中で、会館の解体見送りには震災を風化させない意図がある。ただ「民間企業が管理や費用負担を続けるのは難しい」としており、恒久的な保存の道筋は不透明だ。」「河北新報」8月8日付け)

「同商店グループの南三陸ホテル観洋は語り部バスを運行している。おかみの阿部憲子取締役は「被災地への共感が復興を後押しする。教訓を語り継ぐ場として、被災建物は

大切。解体すると取り返しがつかない」と話す。会館で救助された町民からも保存を望む声が寄せられているという。」（「河北新報」8月8日付け）

南三陸町のホテル観洋は、自ら町に申し出て避難所となり、多くの被災者のために尽力しました。

### 津波の被災の遺構を残そう

現在、被災の意向として残っている建物は、たろう観光ホテル（宮古市）、町役場（大槌町）、防災対策庁舎（南三陸町、11月解体予定）、江島共済会館（女川町）、大川小学校と門脇小学校（石巻市）、荒浜小学校（仙台市）、中浜小学校（山元町）など残り少ないです。一方、陸前高田市は、多くの建物を残そうとしています。

私は、被災の遺構を残すべきだと思います。広島原爆ドームのように、建物が遺構として残っているからこそ、原爆の恐ろしさが実感されます。映像や写真やモニュメントは、到底実物の迫力には及びません。現在残っている建物は、何とか未来の人達のために、遺構として残してもらいたいと思います。被災者の方達も、時間が経てば、津波の遺構を残すことにきっと賛成をしてくれるのではないのでしょうか。

### 【もう第18共徳丸の姿を見ることはできません！】

